

## その他の宝物

石上神宮はその歴史の初期から、刀剣や甲冑、その他の神宝の貯蔵所であった。実用的な武具と儀式用の武具の宝庫としての役割は、朝廷の軍事的・宗教的な分野を監督していた物部氏との密接な関係を反映している。今日、この神宮の宝物の多くは重要な歴史的遺物となっている。

### 日の御盾

この一対の鉄製盾は5世紀中頃のものとされる。この盾は新天皇の即位式に建てられた仮宮を守るために象徴的に使用された祭具である。高さ約140センチ、横幅約70センチの盾は、大人を覆うには十分な大きさだが、金属の薄さから、戦場に持ち運ぶものでなかつたことは明らかだ。

(古くて壊れやすいため、盾は公開されていない)。

### 色々威腹巻（いろいろおどしあらまき）

この腹巻鎧は、丈夫な革や鉄の札を何百本も編みこんで作られている。九段に分かれた草摺や湾曲した胸板などのデザインから、1500年代か1600年代に作られたものと思われる。この鎧は、赤、白、黄、紫の威と、大袖、胸板、兜の札のデザインがそれぞれ異なっていることが

特徴である。甲冑は現在、奈良国立博物館に保管されている。

### 鎧櫃

この松材の木箱は、拝殿を囲む壁に沿って置かれている。地味な外見とは裏腹に、この木箱は歴史的な遺物である。木箱の蓋の裏側に墨書されたメッセージから、この木箱が1365年に作られたことがわかる。伝統的な意味での神聖さや貴重さはないが、来訪者が近づいて触れることができる650年前の物であることは注目に値する。